

第62回 大阪国際フェスティバル2024

中之島・フェスティバルホール

(左から)成田達輝、鈴木優人、三浦一馬、工藤隆太郎撮影



なりた・たつき 1992年生まれ。
2010年ロン・ティボー国際、12年
エリザベート国際の両コンクール
2位。使用楽器は宗次コレクシ
ョン貸与のストラディバリウス
「Tartini」。

すずき・まさと 1981年生まれ。
パッサ・コレギウム・ジャパン首
席指揮者、関西フィル首席客演指
揮者ほかの指揮活動や作編曲、音
楽祭やオペラのプロデュースなど
で幅広く活躍する。

みうら・かずま 1990年生まれ。
10歳でバンドネオンを始め、自作
CDの売り上げで渡航費を捻出し
アルゼンチンに渡る。2008年、国
際ピアソラ・コンクールで日本人
初、史上最年少の準優勝。

「春の祭典」パリ揺るがせた問題作

1913年5月、パリ・シャンゼリゼ劇場は騒然とな
った。耳をつんざく管弦楽の雄たけび、野性のリズム
と不協和音の乱舞、変拍子の嵐……。パリっ子の
常識と理解を超えた新時代の音楽に、会場は賛否両
論の渦と化す。

ロシアの作曲家ストラビンスキーのバレエ音楽
「春の祭典」の初演である。ディアギレフ率いるロ
シア・バレエ団とニジンスキーの挑戦的な振り付け
は、この曲が醸す異様な興奮を大いにあおったこと
だろう。作曲家の代表作にして最大の問題作が、6
月公演後半のプログラム。指揮の鈴木優人は言う。

「粗野で背徳的で、強烈なコントラスト。その前
衛的な響きは今聴いても問題作で、歴史的な衝撃が
果たした役割は大きい。でも、緊張感をもって緻密
に張り巡らされた音楽は目の前の魂を動かします」

そんな伝説的エピソードに彩られた「春の祭典」。
曲名からイメージする穏やかな曲想を思い浮かべる
ならば、それは大間違い。神に捧げられた乙女が異

教徒の儀式でいけにえとなるというおどろおどろし
い設定を背景に、生命力の原始的な躍動が濃密な音
の洪水にのって炸裂する。

鈴木いわく、アンサンブルの限界、オーケストラ
の能力が試されるだけに、「一瞬も気が抜けない、
怖い作品」なのだ。

実は1959年、ストラビンスキー本人が第2回大阪
国際フェスティバルの招きで来阪し、自ら指揮台に
立っている。そんなゆかりの深いフェスで、「春の
祭典」を披露できるのはすごいこと、と鈴木。編成
も巨大だから、そうたびたび演奏されるしろものでは
ないけれど、「まさにフェスティバル(祭典)で
すからね」と気合も十分だ。

数々の才能がしのぎを削り、伝統と革新がせめぎ
合っていた20世紀初頭のパリ。雑多なエネルギーが
渦巻く芸術の都を揺るがせたあの興奮を、なにわの
街でもう一度。その日あなたは「事件」の目撃者に
なる、かもしれない。

アイレスの四季」、ストラビンスキー
「春の祭典」▽S席7500円ほか

③大阪フィルハーモニー交響楽団×尾高忠
明 マーラー「交響曲第2番『復活』」

8月2日(金)午後7時▽独唱:森谷真
理(ソプラノ)、加納悦子(メゾソプラ
ノ)、大阪フィルハーモニー合唱団▽S席
8500円ほか▽3月23日午前10時一般発売

④アンドリス・ネルソンス指揮ウィーン・
フィルハーモニー管弦楽団 11月9日
(土)午後3時▽五嶋みどり(バイオリ
ン)▽詳細は後日発表、6月一般発売

◇会場:フェスティバルホール(大阪・中之島)

◇主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェ
スティバルホールほか▽協賛:朝日放送グル
ープホールディングス①②③、関電工①、京阪
ホールディングス①、サントリーホールディ
ングス①②、ダイキン工業①②、大和ハウス
工業①、高砂熱学工業①、竹中工務店①②
③、西原衛生工業所①

◇公演詳細・チケットはフェスティバルホール
(06・6231・2221、<https://www.festivalhall.jp>)。チケットは主要プレイガイドでも販
売

時代超え 二つの「四季」共鳴

二つの「四季」が時空を超えて共鳴し、「春」の生命力が荒々しく萌え立つ。第62回大
阪国際フェスティバル2024の6月公演は、音が奏でる春夏秋冬だ。鈴木優人(指揮、鍵盤
楽器演奏、編曲)、三浦一馬(バンドネオン)、成田達輝(バイオリン)の主演3人に、
演目の魅力と意気込みを語り合ってもらった。

(編集委員・中村俊介)

鈴木優人×三浦一馬×成田達輝

——バロックきつての有名曲、ビバ
ルディの「四季」と、タンゴの巨人ピ
アソラの「ブエノスアイレスの四季」。
地域も時代もまったく違う2曲です
が。

鈴木 イタリアとアルゼンチンの作
曲家をくっつけて大阪でやる。地球の
表と裏の2人が地球のコアで出会う、
そんな演奏にしたいですね。

もともとバンドネオンはパイオル
ガンのかわりに宣教師が南米に持ち込
んだともいわれる楽器だから、バロッ
クの響きにも近いんですね。バイオリ
ンだってタンゴに欠かせない。

成田 時代を超えて私たちがどう演
奏するか、ですよ。

三浦 時代が違っても、めざすところ
は共通する。クラシックは譜面通り
弾くと思われがちだけど、自由なところ
もあるんです。ビバルディにもロッ
クなビートがあるし、通奏低音はその
瞬間に生まれるもので遊んでいる。ピ
アソラもクラシックやロック、ポップ
スを探り入れて自分のものにした。そ
の感性は自分の方針になっています。

季節の印象みな違う

——同じ「四季」でも雰囲気はすい

ぶん違います。

鈴木 ビバルディは具体的にソネッ
ト(短い定型詩)を添えているし、ピ
アソラの冬ってとてもセンチメンタ
ル。大阪のお客さんもうるんな印象を
受けるでしょう。ミナミの春とか道頓
堀の冬、北新地の秋とかね(笑)。

三浦 春夏秋冬、人によってみな違
う。ピアソラはブエノスアイレスとい
う都市空間で四季折々を見ていたこと
でしょう。冬から春に向かう息吹も感
じる。

日本ならではの音に

——鈴木さんがアレンジすると聞き
ました。

三浦 タンゴはアレンジ文化です。
楽団ごとに違うしそこに個性が出る。

鈴木 ピアソラ自身、ドラムセット
やエレキギターを入れたりして遊んで
いたから、スタイルの変遷も意識しつ
つ日本の我々ならではのパージョング
ができたね。それにビバルディがイン
スパイアしたような。

バロックの通奏低音って自由なん
です。バンドネオンも和声楽器としてサ
ポートできる。今回はそんなもの入れ
ようと思っている。

三浦 お手柔らかに。

独創性を示していく

——2曲のコラボ例では、とりわけ
ギドン・クレーメル(バイオリンス
ト)の録音が有名ですね。

成田 彼の功績をどう乗り越える
か。でないとい日本でも意味がない。
問題提起というか、現代社会において
時代を超えた芸術を、私たちが演奏す
る意味を出すにはどうすればいいの
か。クレーメルを尊敬しつつも、オリ
ジナリティーを示す演奏をしたい。

三浦 いま世界中に、いろんなスタ
イルのピアソラがある。なので、オリ
ジナルにこだわらつつ柔軟にやるつも
り。クレーメルにもそんな姿勢を感じ
ます。

——本番が楽しみです。

成田 二項対立が溶け合い、これま
での録音や演奏会とはまったく違う側
面を提示できれば、と思います。聞き
に来てくださる方々の心に残る時間
になればいいですね。

三浦 我々さえどんな音になるかわ
からないけれど、新しいアプローチで、
いままでなかったものを創造したい。
鈴木 新しい四季を届けましょう。
僕が2人に投げた球がどう返ってくる
か。脳内全部総入れ替えされるくらい
のインスピレーションは間違いなしで
す。



©Martin Richardson

まさまな「復活」
への願いを乗せ、
この夏、大阪の夜
にこだまする。

「復活」願い 繰り返すフレーズ

グスタフ・マーラーが手
けた交響曲第2番「復活」が
8月、尾高忠明の「写真」指揮
の大阪フィルハーモニー交響
楽団によって大阪国際フェス
ティバルに登場する。

独唱と合唱を加えた5楽章
構成という巨大かつ異形のシ
ンフォニー。満を持しての終
楽章では、合唱が繰り返す
「復活」のフレーズが聴衆の
胸に感動を刻む。尾高自身、
この登場ほど印象深い作品は
ない、という荘厳さだ。

大作ゆえ特別な機会での演
奏も少なくないこの曲。社会
の荒廃、海の向こうの戦争、
そして能登半島地震……。さ

①関西6オケ! 2024 4月20日(土)午後1
時(同6時終演予定)▽大阪交響楽団、

大阪フィルハーモニー交響楽団、兵庫芸
術文化センター管弦楽団、関西フィル
ハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交
響楽団、京都市交響楽団と6人の指揮者
が出演▽S席1万3千円ほか

②鈴木優人×関西フィルハーモニー管弦楽
団 二つの「四季」と「春の祭典」 6
月12日(水)午後7時▽三浦一馬(バンド
ネオン)、成田達輝(バイオリン)▽ビ
バルディ「四季」+ピアソラ「ブエノス